

学徒動員学校工場

第二次世界大戦前後、若商は社会状況の変化によって、数度校名を変更させられます。昭和十九年、それまで使われていた「若松商業学校」が、「若松工業学校」となります。工業科が併設されたためでした。実業教育、ことに戦争に貢献することが期待され、工業教育に重点を置く政策に基づいたものだったようです。

同じ年、戦局は悪化し十月には「若商生」が学徒隊として横須賀にある海軍の工場や地元の工場などへ派遣されました。つまり商業学校に入った先輩方は、工業学校の在校生として工場で働くという結果になったのです。商業を学び、そこで得た知識や技術をもとに、就職しようと考えていた若者の思いを、戦争は無惨にも打ち砕いてしまったのでした。

昭和二十年八月終戦をむかえます。戦勝国による民主化政策などが進む中、昭和二十一年に工業科が移転、「若松商業学校」へと再び変更されます。さらに昭和二十三年に新しい学制がしかれ、現在の三年制による新制高等学校として「若松商業高等学校」となりました。旧制度では、五年の在学期間を経たうえで卒業でした。従って同時期に入学した方々でも在学期間は様々でした。旧制によった五年間、戦争時繰り上げ卒業による四年間、新制による三年間と、戦争は未来を夢見て学ぼうとする若者たちを翻弄しました。

今回、百周年を迎えるにあたって、当時在学された先輩の方々から、学校生活を知る上で貴重な文章を頂戴いたしました。あらためて、学ぶことの出来る平和な世の中になったことに、感謝の気持ちがかかります。

